

〈巻頭言〉

## 経済学部創設60周年を迎えて

——この10年を振り返り——

経済学会前会長 林 順 子

南山大学経済学部は、1960年4月に創設されて以来、今年60周年を迎えました。この間、学部からは14,775名、大学院からは延べ238名の卒業生が巣立っていきました。長きにわたり、本学部を支えてくださった皆々様に、学部構成員一同、厚く御礼申し上げます。

50周年の際には、「21世紀にはばたく人材の育成」と題したシンポジウムの開催をはじめとして、様々な記念行事をおこないました。先輩諸氏にもご協力いただき、学部の歴史を振り返る『南山経済研究』50周年記念号を発刊し、また学部教員全員がそれぞれの研究を紹介するミニ公開セミナーも4ヶ月にわたって開きました。

それから10年。南山大学も経済学部も、大きく変わりました。

変化のひとつに、教員の活動があげられます。2020年度在籍教員数は10年前から1名増えて23名。内11名はこの間に本学部に新しく入った教員であります。研究活動はますます活発化し、海外雑誌を含む査読付き雑誌への投稿、採用が増加したほか、2017年1月からは進行中の研究を発表し意見を交換する月例研究会が経済学会の活動に加わりました。

それ以上に変わったのは学部・大学院の教育体制です。少子化に加え、大学認証評価や「学校教育法施行規則」改正など国が進める教育改革の流れの中で、まず2010年に3つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー））が制定されました。ポリシーはその後にも改正を重ねて今にいたります。このポリシーに基づき、広い視野をもって国際社会で活躍できる人材育成を目指して、2015年度にオーストラリア、グリフィス大学での短期留学プログラムが導入されました。

大学院においても、経済学研究科は経営学研究科・総合政策研究科とともに社会科学研究科に統合され、2014年度から社会科学研究科経済学専攻博士前期課程が、16年度には同じく後期課程が設置されました。

学部入学定員は、2010年度までの250名から、11年度に265名、17年度に275名と拡大しました。2017年度の変更は定員だけではありません。全学でクォーター制が導入されたことに伴い、本学部は2つの大きな改革を決断しました。1つは、スケジュール

ルの関係上、経済学部の伝統行事である新入生の学外オリエンテーションを中止したこと。そしてもう1つは2年次の経済演習をカリキュラムから外したことです。1年次から4年次までの少人数のゼミで手厚く学生指導をおこなうのが本学部の特長でしたが、それが失われたこととなります。しかし代わりに、短期間で集中的な学習が可能になるというクォーター制の特徴を活かし、柔軟な履修を認めるカリキュラムに変えたことで、学生は休学することなく、必修科目のない2年次に留学やボランティア、あるいはインターンシップなどの多彩な活動に専念する機会を持てるようになりました。このような機会は、学生の人生の糧となるだけでなく、大学での学びにも大きな影響をもたらしてくれるはずです。

これらの改変にあたっては、新しく学部に来られた教員とも伝統を共有しつつ、大学改革を前向きにとらえ、学部生・研究生生にとって何が大切か、学部・研究科として何が出来るか、いくつものワーキンググループを立ち上げて方策を検討し、教授会等でも長い議論を重ねました。そして、基礎教育を重視するとともに、1,3,4年次のゼミと卒業論文を必修とする本学部の伝統を堅持した上で、学生の成長ひいては学部の発展を願い、先述の変更をおこなうという結論にいたりました。この結論は、諸先輩方には賛否あるかもしれませんが、これが現在における本学部にとっての最善の道と考えております。

50周年記念号の巻頭挨拶で、荒井好和学部長（当時）はその号を、学部のDNAを再確認し、新たな改革の方向性を見いだすものと位置づけました。今回の60周年記念号巻頭において、まずこの10年間を振り返りましたのは、諸先輩方だけでなく、今の学生や教員にも、本学部のDNAと現状にいたるまでのあゆみの一端をお伝えしたかったからであります。願わくは、50周年記念号や『南山大学五十年史』『南山学園創立75周年記念誌』等にもお目通しいただければと存じます。

2019年度末、新型コロナウイルス感染症流行という、全く予想しえなかった事態が起きました。大学創設以来はじめて、大学の主役たる学生の姿が構内から消え、2020年3月の卒業式、4月の入学式さえも中止を余儀なくされました。まさに歴史的な事件に見舞われながらも、我々はやはり前を向くしかありません。突然のオンライン化に戸惑いつつも、現役学生、教職員、ともに新しい生活とより良い教育の在り方を模索し続けております。

南山大学経済学部に関わる皆様におかれましては、本学部のこれからを温かく見守り、導いてくださいますよう、心よりお願い申し上げます。